テレワークの種類	在宅勤務	モバイルワーク	サテライトオフィス
	○	○	

狙い	生産性向上	移動時間短縮	非常時の事業継続	顧客満足度向上	WLB向上	オフィス費用削減	通勤弱者対応	創造性向上	優秀な人材確保	省エネ・CO2対策
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

企業の概要

企業・団体名	オーセブン株式会社	本社所在地	埼玉県
業種	情報通信業	総従業員数	54名
事業概要	ソフトウェア開発販売　他		

テレワーク実施概要

雇用上の規定	テレワーク在宅勤務規程
テレワーク担当部署	営業部
テレワーク対象者	営業職・経理・企画開発・技術職
実施者数	53名
平均実施日数	月16回以上（概ね週4回以上）

テレワークの導入・拡大の経緯

- 2020年4月、最初の緊急事態宣言が本格導入のきっかけとなった。
- テレワークという仕事の仕方について、常に社内で検討されていたが、 各部署間の公平性をふまえ、踏み切れずにいた。
- その中で、緊急事態宣言がきっかけとなり、「テレワークが可能な社員は 全てテレワークをおこなう」という答えにいきついた。
- 現在もテレワーク対象の社員数の拡大を進めている。

テレワークの概要・特徴

- 弊社のテレワークはICTを積極的に取り入れ運用している。
- 以下の3つを組み合わせることで、あらゆるコミュニケーションの死角をなくし、実際に出社する必要がなくなった。

1，e-Kan（自社開発の社内情報共有システム）
- 内製化したe-Kanによって、全社員のスケジュール管理、業務報告、その他の共有事項を 常時オンラインでサーバー管理が可能。
- いつでもどこからでも全社員が見ることができる。
- 事務所での仕事と変わらない情報共有と管理をテレワーク下でも実現している。

2，Zoom（オンライン会議）
- Zoomは、オンライン会議の他に、数名のグループ単位で常に接続し社員同士が顔の見える仕事を実現している。
- また仕事の相談・質問・雑談なども気軽にすることができ、コミュニケーション不足対策にも一役かっている。

3，Teams（チャット）
- Teamsでは、各部署や必要なグループを設け情報共有をおこなっている。
- やり取りの履歴が残り「見える化」され効率的な仕事に繋がっている。

テレワーク導入の効果（経営にもたらした効果、その他効果）

- 通勤時間がなくなり有効活用できる時間が増え社員の満足度がUPした。
- 旅費交通費が大きく削減された。
- テレワーク、ICTを意識した仕事の見直しができ全体の業務改善をすることができた。
- 事務所が手狭になっていたが、テレワークを取り入れたことで一気に解消し、さらなる社員採用をすることができている。
- 難しいと思っていた、営業のweb化に取り組み売上UPを実現することができた。
- 対面ではなくなることで、社員間の報・連・相が密になり情報共有を以前より大切にするようになった。
- 遠方の方の採用にも積極的になった。
- 移動コストが排除でき、お客様からの要望が強かった短時間の研修を実現することができた。
- 納品・研修・サポートなども積極的にテレワークでおこなうことで、お客様へテレワーク・ICTの普及活動ができている。